

荒川エコロジカル・ネットワーク

～生き物と共生する自然のつながりづくり～

荒川の河川敷にある旧流路を中心とした湿地環境やビオトープなどを核にネットワークとしての自然環境を保全する取組を進めています。



荒川に分布する自然の拠点

エコロジカル・ネットワークの考え方

多くの生き物は、エサを捕ったり、休息、繁殖などの目的にあわせて、1日、1年、あるいは一生のライフサイクルに応じた生息空間を必要とします。こうした生き物の生息空間を“ビオトープ”と言い、それらの間を自由に行き来できる川や樹林などの自然の帯が必要となります。

荒川に残されたさまざまなタイプのビオトープを、自然の帯でつなげることで、生き物のライフサイクルに応じた多様な環境を生み出すことができます。

この自然の帯は異なるタイプのビオトープだけでなく、同じタイプのビオトープにも必要です。生き物は同じ集団だけで交配（遺伝子の交換）を続けていると、環境の変化に耐えられない弱い個体が増え、種を維持することは一般にできないからです。

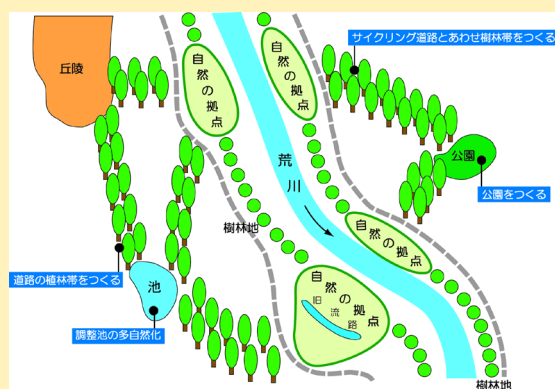
同種の自然・異なる自然をネットワークさせることで、生き物たちが暮らしやすい自然環境が生まれます。



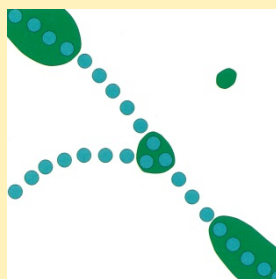
エコロジカル・ネットワークの考え方

▶ 荒川における自然の回復へ向けた取組み

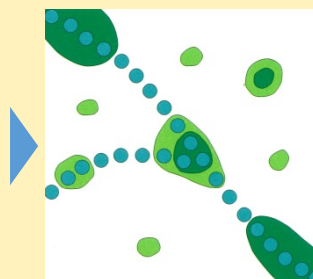
荒川流域全体の自然のつながりを強化するためには、第一段階として生態系が健全に機能し、ある程度まとまった「核」となる自然の拠点を守り、その自然を回復させることが重要です。また、さらにそれらを大小の川、谷地などに連続して現れる湿地、自然堤防上の屋敷林などを軸として互いに結び、市街地の自然とつなげていくことで、荒川流域全体の自然を豊かにしていくものです。現在、荒川での取組みは、荒川を自然の大きな柱と考え、荒川の河川敷にあるネットワークの「核」となる自然の拠点を保全・回復する整備を行うことにより、ビオトープのネットワーク化の実現を目指しています。



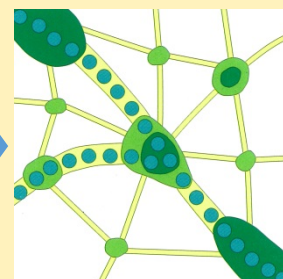
ネットワークイメージ



まとまりのある
重要な自然を守る



中つぎとなる
自然をつくる



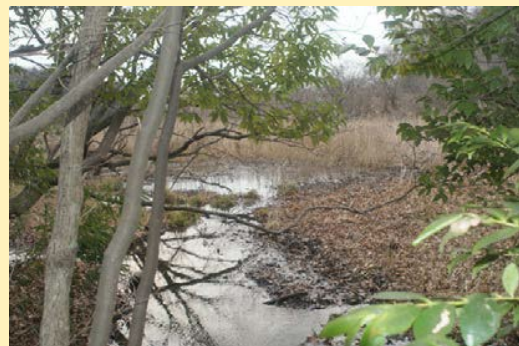
それらをつなぎ
ネットワーク化

▶ 関東エコロジカル・ネットワーク

関東エコロジカル・ネットワークは、関東地方におけるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを基本理念として計画されました。

関東地方は、水辺の生物多様性が豊かであり、生態系サービスを活かした伝統的な生活が近代に至るまで培われてきました。関東エコロジカル・ネットワークでは、関東地域において、多様な主体の協働・連携によりコウノトリ・トキを指標（シンボル）とした河川および周辺地域の水辺環境等の保全・再生に取組み、水と緑が豊かなエコロジカル・ネットワークの形成を進めています。

また、コウノトリ・トキの野生復帰を通じた「環境の世紀」にふさわしい地域振興・経済活性化方策にも並行して取り組んでおり、魅力的かつ内発的な地域づくりのための広域連携モデルの形成も推進されています。



湧水のある谷津の様子
(埼玉県北本市内：荒川流域エリア)

コラム 荒川上流部の自然再生事例

荒川第一調節池では、幸魂大橋から下流側の65.1haを「自然保全ゾーン」として、自然回復に向けたさまざまな試みを行っています。このエリアでは人の立ち入りを禁止し、野鳥などが羽を休める場所として、植物の生えるイカダを浮かべるなど自然の回復に取り組んでいます。

また、荒川のまわりでは、残っているビオトープを守り、なくなったものはつくり育て、川を軸にそれぞれのビオトープをつなげようと取り組んでいます。

多くの生きものは、目的や時期といった条件により、いくつものビオトープを必要とします。様々なビオトープがそろい、つながっていることで、生きものがあふれる豊かな自然になるのです。



イカダで羽を休める鳥